

平成29年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表

○ 教育方針	①真理と正義を求め、一意学問に精進する態度を養う。 ②すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 ③正しい判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 ④部活動を奨励し、明るく、たくましい心身を培う。 ⑤豊かな情操と強い連帯感を養い、奉仕する心を育てる。	《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている) 3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている) 2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている) 1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない)
○ 努力目標	①学校運営の充実 ②校内研修及び個人研修の充実 ③生徒指導及び生徒会活動の充実 ④学習・進路指導の充実 ⑤保健・環境美化の充実 ⑥施設・設備の充実	
○ 今年度の重点課題	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④部活動の充実 ⑤心の教育の充実 ⑥スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評価	成 果 と 課 題
------	------	-----	-----------	----	-----------

1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価

(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。	3.3	①今日の課題や生徒の実態を踏まえた重点課題を設定できた。 ②各分掌、学年、教科で重点課題に基づいた経営方針を設定し実践に努めた。 ③教育方針等の周知に努めているが、さらなる充実を図る必要がある。
			②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。	3.3	
			③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.1	
(2)学年経営	学年目標の具現化	1学年 「Believe」を学年スローガンに ①豊かな感性の育成 ②生徒指導・生徒支援の充実 ③主体性を養う進路指導の充実を図る。	①挨拶・学習・部活動・学校行事・学級活動・朝読・清掃活動に積極的に取り組ませる。	3.6	月毎のスローガンを設定し、学習や各種活動に主体的に取り組むよう促したが、学習時間の増加に結びついていない。悩みを抱える生徒については、生徒支援部の協力も得て、担任団より考えられるあらゆる対処を取っていただいた。 明るく爽やかな挨拶をしてくれて好感が持て、行事等での取り組みもよくなってきている。 今後は、受験生としての自覚を持たせ、学習の量も質も高めさせていきたい。
			②面談により生徒理解を深めることで信頼関係を築く。	3.3	
			③スコラ手帳の活用による自己管理や、職業観育成・学部学科探究につながる進路希望調査など、生徒が自らの進路開拓に主体的に取り組むよう仕掛ける。	3.3	
		2学年 「今、輝く56回生！」を学年スローガンに ①長崎南高生として望ましい生活習慣をつけさせる。 ②自己を大切にし、誠実で思いやりのある生徒を育てる。 ③進路指導を充実させる。	①明るく爽やかな挨拶に努めさせる。	3.5	
			②学校行事や係活動を通して規範意識を高め、協調性を身につけさせる。	3.5	
			③予習・授業・復習のサイクルを確立させ、授業を通して学力を向上させる。	2.8	
		3学年 「新しい自分への挑戦！」を学年スローガンに、 ①逞しい生徒の育成 ②生徒指導・生徒支援の充実 ③主体性を養う進路指導の充実を図る。	①受験、部活動、学校行事、学級活動、朝読、清掃活動に積極的に取り組ませる。	3.7	
			②面談をとおして生徒理解と信頼関係の構築を行い、コミュニケーションを大切にすることを育む。	3.6	
			③進路情報やSSHの研究活動により身につけた知識などを活用し、進路実現に向けて明確な志望理由を持って、主体的に取り組む姿勢を育成する。	3.7	

2 教育活動		教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価			
(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.3	教育課程委員会で十分検討されている。次年度SSHの継続の有無にかかわらずさらに改善していきたい。
(2)学習・進路指導の編成					
①教科・進路指導	確かな学力を身につけさせる授業の実施と進路指導	国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.5	各学年とも、担当で連携しながら指導を行うことができた。また、AL型の授業改善に向けて、教科内で検討を行った。
			②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.5	
			③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.5	
		地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。	3.0	教育センターの研究に積極的に協力した。
			②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。	3.0	
			③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	3.0	
		数学科 学習指導の充実と授業力の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.0	SSHについては、数学科としての活動ができなかった。
			②計画的に課題を与え、処理は迅速にし確実に仕上げるまで指導する。	3.4	
			③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.5	
			④SSHの充実に向け、SSH研究開発部と協力しながら、生徒の実情に合ったカリキュラムの開発を進め、生徒の科学的な資質を高める。	2.0	
		理科 学習指導の充実と進路実績の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど授業の質を高める工夫を行う。	3.5	○授業進度を確保し、模試等に対する目標の実現に向けて取り組むことができた。 ○ICT機器を活用した授業やアクティブラーニング型授業の実践にも取り組んだ。
			②計画的に課題を与え、処理は迅速にし、確実に仕上げるまで指導する。	3.0	
			③主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向けて組織的に取り組む。	3.5	
			④生徒の実情にあったストレⅠ、Ⅱ、Ⅲや課題研究の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.0	
		英語科 学習指導の充実と実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.7	担当者間で連携を図りながら、TT、AL、ICT、SSHトレーニングなど様々な活動に取り組みせ、一定の成果を上げたが、それらの土台となる基礎・基本の定着や学習の習慣化については、さらに粘り強い指導が必要である。
			②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.6	
			③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて組織的に取り組む。	3.4	
			④コミュニケーション英語、英語表現の授業、およびSSHトレーニングを通じて、実践的なコミュニケーション能力を育成する。	3.1	
保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし授業の質や緊張感を高める工夫を行う。	4.0	集団行動指導をとおして、授業や集会等の開始、または、忘れ物等の日頃の生活に生かされるようにしていきたい。		
	②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。	4.0			
	③受験（体育系）指導の充実。	4.0			

		芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組み専門的に一定程度以上の能力を持たせる。 ②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.0 3.0	実技試験や作品完成に向けて意欲的に取り組み質的に高まりがあった。締め切りも守る生徒がほとんどであった。
		家庭科 学習指導の充実と実生活への活用に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。 ②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。 ③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。 ④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。 ⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4.0 4.0 3.0 3.0 3.0	乳幼児ふれあい体感では、連続の参加者が増え、在校生や保護者からの紹介が多くなってきた。また、参加者のアンケートにより、生徒の真摯な態度が高評価を得ている。今後、必要な知識の習得と実技のバランスを取り、指導法を工夫していきたい。
		情報科 情報に関する知識の習得と、情報技術・情報モラルの定着に努める	①授業の質や緊張感を高める工夫を行う。(移動を早く、生徒の授業への集中度をあげる) ②知識の習得(デジタルの知識・アルゴリズムの理解習得・問題のモデル化とシミュレーションの学習、情報モラルマナーの理解定着) ③技能の習得(タッチタイピング習得・データベースの利用方法の学習)	3.0 3.0 3.0	進数の学習では数学でも役に立つよう復習の機会を増やした。PC操作のスキルが身につくよう練習を行った。モラルマナーの分野の学習を自分自身のこととして捉えさせることが課題である。
②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	①生徒会、文化祭、体育祭などの自主的な委員会活動を通じて、リーダーとなる人材を育成する。 ②部活動の練習環境を充実させるとともに、下校時間を守らせ、学習と部活動の両立を支援する。	3.4 3.3	○特に体育祭実行委員会では、自主的、組織的な取り組みがなされている。他の委員会等もそれにならいたい。 ○今年度も多くの部活生が上位入賞を果たすなど、活躍が多かった。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な発進と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営 ②研究開発の推進 ③研究成果の普及活動の充実	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める。 ②SSH事業の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する。 ③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校へ情報発信に努める	3.3 3.3 3.3	第一期5年次として、これまでの活動を総括した一連のプログラムが完成した。成果の発信をHP以外でも積極的に行っていく。
(4)生徒指導	品位ある南校生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	① 校時の挨拶指導の実施と学校生活における基本マナーの周知徹底 ②○掃除の徹底○机・ロッカーの整頓 ○貴重品の管理(貴重品袋の活用推進) ③○違反についてはその場で指導することを全職員で徹底 ○容儀検査の実施と事後指導の徹底	3.2 3.0 3.1	①場面によって挨拶の状況に差があるものの、外部からお褒めの言葉をいただくなど徐々にではあるが改善の傾向にあると考える。 ②③計画的に一齐指導を実施。大崩れはしていないが、主体性に課題を残している。

			④○携帯電話の使用ルールの遵守徹底 ○下校時刻の遵守徹底	3.2	④携帯電話の持ち込みの状況については2学期末現在で昨年同時期と比較して6件減少(21→15)。引き続き生徒指導だより等を通じて生徒・保護者に適切な利用について周知徹底を図りたい。下校時刻については、下校指導を実施してから概ね守られるようになった。冬時間の女子の下校時刻は一部生徒について柔軟な対応が必要かもしれない。 ⑤バスの乗車マナー関連の苦情についてはイレギュラーな時間帯に関するものはほとんどなくなった。ただ、苦情が皆無ではないので、引き続き生徒会とも連携して指導を継続していきたい。
			⑤○バスマナー指導等を通し、相手の立場に立って考えさせる場を設定 ○生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる ○毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ○生徒会、生徒支援部との連携	3.2	
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また、安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.2	定期的な保健だよりの発行や教室やろうかの換気を呼びかけるなど、病気拡大の予防に努め、健康・安全に対する意識や態度の育成に努めた。今後、生徒各自が自らの健康に関心を持ち、心身ともに健康な生活を心がけるような指導をしていきたい。
				3.4	
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切に する態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実に努める。	3.5	1年生に対して、専門家によるメンタルヘルス講話を実施して心の教育の充実に努めた。また、2学期以降は、月に1回、SCによるカウンセリングができるようになった。今後、支援を要する生徒とともに、保護者への対応を強化する必要がある。
				3.5	
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員部活制を生かし、個々の生徒の活動の継続に努める。	練習時間と部室使用規定を遵守させ「学習と部活動を両立」させる。	3.2	今年度、部室の鍵の返却チェックを行わなかったのが反省点である。
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価					
(1)教育環境の整備	落ち着き心やすく教育環境の整備	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	清掃を師弟同行の場として、必ず監督について現場で指導を行う。	3.2	掃除については、「している生徒」と「していない生徒」が混在している状況が散見される。ほとんどの職員が一人で3~4カ所の区域を監督しているので終始張り付きでの指導は困難であるが、可能な限り曜日によって掃除箇所を変える等の工夫をすることで指導の徹底をはかれな いかと考えている。

(2)施設・設備の管	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。	3.3	4期に分けて実施した屋上緑化工事は今年度で完了予定である。老朽化が進むB～D棟の維持補修に引き続き努めて行く。
			②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.3	
(3)情報化推進	教育活動のIT化	IT関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①情報機器等の充実した整備を行う。 ○校内LANの生徒への活用を推進する。	3.2	今後は、教室の電子黒板を活用した授業改善へ向け、SSHタブレット等の授業活用を積極的に推進する。
			②校務処理の効率化と職員ICT活用能力の向上に努める。	3.1	
4 開かれた学校 関連機関や団体との連携における教育成果の評価					
(1)保護者との連携	PTA活動の充実	PTA総会の盛会与PTA活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。	3.1	保護者の協力をいただき、本年度も高い出席率を保つことができた。第2回常任委員会が荒天のため中止となった。
			②PTA総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.2	
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	3.3	崎陽塾では世界の一線で活躍する方の講演を聞き、生徒のキャリア意識の向上につながった。
5 生徒の教育成果 校訓の具現化～知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価					
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち、礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組ませる。	3.1	○特に学校行事には積極的に取り組んだ。 ○継続的な委員会活動を行っている委員会もある。正しい習慣を身に付けるために、委員会活動をさらに活発にしたい。
			②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.1	
(2)学力の向上	・真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起する。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る	3.2	①今年から雲仙で行った1年の宿泊訓練はよかった。 ②調査研究にかかる研究授業等が24回、授業研究会が12回行われた。これらの成果を3月の職員研修で共有し、次年度に生かしたい。 ③推薦指導など全職員に協力いただき指導にあたることができた。
			②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。	3.3	
			③進路実現100%を目指す	3.5	
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成		①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。	3.2	部活動と学習の両立を通して、生徒は自己肯定感を高めることができ、それが自己形成につながっていると思う。
			②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.1	